

2026 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題

総合型選抜 【専願・併願】実技・プレゼン・小論文型入学試験 2 期

入試問題

試験科目：「小論文」

日 程：2025 年 12 月 13 日（土）

試験時間：50 分 ／ 解答字数：800 字程度

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域

対象コース：リベラルアーツコース

〔課題〕

下は、マンガ家の南勝久氏が自著の『ザ・ファブル』というマンガ単行本のカバー折り返しに記したものです。原本では「／」の部分で改行されています。この文を読み、下の問に答えてください。

主人公、佐藤明の原点の設定をサバイバルにした事で、／当初は、その手の本や DVD をかき集め、なんとかかな
らな思っていたのだが、／卓上の知識だけ増やしても、こりゃ実際にやらないと、ちゃんと描けないな……と
気づき、／嫌がるスタッフらを連れて、二泊三日のサバイバルを敢行――。

このサバイバル編を描くまでに、石川県、兵庫県、地元の山など計 4 回の山籠りを体験取材した――。

それまで僕は、山などまったく興味がなく、爬虫類を触るのも無理だったが、／『仕事』と割り切るとスイッ
チが入り、マムシやカエルをナイフでさばけるようになり、／バツタ、トンボ、コガネムシ、山ゴキブリ、幼
虫などなど……、／下調べしたうえで、捕まえて食べれるものは、かなりいろいろ食べてみた――。

我々の先人が食べていたが、食文化の変化とともに、／ビジネスにならないものたちのルーツを少し感じた気
がした……。

こういう体験を話すと「気持ち悪い……」とよく答えが返ってくるが、／地震やなんらかの災害など、もしも
の時に役立つのがこういう知識であり、経験である――。

少なくとも得はしないかもしれないが、損をする事もないのが、こういう事だと思う……。

近い未来、人口爆発で必ずくると言われる食糧難――……。

ちょっと真剣に考えてみた時、あなたならどうしますか……？

南勝久『ザ・ファブル』8 巻（講談社） 2016 年初版、2022 年第 22 刷発行

カバー折り返しより引用

（引用者が最後の署名および改行の一部を削除し「／」を加えた）

問 1

南氏が述べたことを 150 字程度でまとめてください。あなた自身の感想や批評などは入れないこと。

問 2

『ザ・ファブル』は第一部が終了した後、第二部が連載されました。また実写映画が二作、上映されました。マンガの第二部の連載終了後、アニメ版もテレビで放映されました。引用した南氏の文は、主人公が山にキャンプではないサバイバルの形で籠る場面を描いたときのことを記しています。

上の説明、南氏の文、本領域のアドミッションポリシーをふまえ、マンガやアニメなどを含むアート作品制作の際に、リアリズムはどのようなものであるべきか、あなたの考えと、そう考えた理由を 700 字程度でまとめてください。

[出題の意図等] ※問題用紙には記載されません。

現役の高校生を想定した「総合型選抜 B/C 方式」という入試形態をふまえ、下の項目の関心の度合いや力をみるため。

<学んできたことを踏まえた思考・発想・言語化の力（自らの発想と知恵を活用できる基礎力）>

- ・芸術教養の学びやアドミッションポリシーを理解したうえで論述できているか。
- ・他者の意見を参考にしたうえで、芸術作品とリアリズムについて考える力があるか。
- ・抽象的な事柄をふくむ内容をどの程度、言語化できるか。

<基本的な日本語運用力と思考の客観性>

- ・問題文の意味を読み取れているか。
- ・感想を交えず要旨を客観的に記述できているか。
- ・事実（問1）と思考・感情（問2）を区別し記述できているか。

AP：音楽、美術とデザイン、現代の多様な文化と社会に関心があり、自らの発想と知恵、感覚をいかし、地域と社会がかかえる課題を、協働して解決していく意欲のある人を求める。